

第5次振興計画後期計画【2022-2025】別冊

MINOWA

みんなで創る
未来につながる
暮らしやすい箕輪町



箕輪町 第5次振興計画 後期計画 別冊

発行 / 箕輪町

〒399-4695 長野県上伊那郡箕輪町大字中箕輪 10298 番地

TEL 0265-79-3111 (代)

編集 / 箕輪町役場企画振興課

制作 / 株式会社ワイド



箕輪町
第5次振興計画
本編冊子

PICK UP 箕輪チャレンジ / 重点プロジェクト

みの
チャレ

後期計画の策定にあたって

平成 28 年から 10 年間を計画期間とする「箕輪町第 5 次振興計画」の前半にあたる 5 年が経過しました。前半 5 年の取組みとしては、人口減少対策である UI ターン施策とともに実施している町への SNS(ソーシャル・ネットワーク・サービス)等を活用した関係人口創出拡大事業、新型コロナウイルス感染症感染拡大に起因した働き方の変革に伴うニーズに対応したテレワーク施設(東みのわサテライトオフィス)の整備、少子化対策としての「みんなで育てるみのわっこ」施策、環境施策としてのゼロカーボンに向けた取組み、農業応援団計画に基づく「みのわテラス」リニューアルオープン、観光分野における「箕輪町観光戦略プラン」の策定ともみじ湖周辺整備事業、工業分野における「箕輪町工業ビジョン」の策定と事業の実施、教育分野においては、GIGA スクール構想^{*}に基づく 1 人 1 台端末の導入と高速通信環境の整備、ICT 支援員の配置など更なる ICT 教育にかかる環境整備を行いました。

現在、少子高齢化の進展や若年層の都市部への流出などにより地域社会の担い手不足が顕著になり、ICT 技術の普及により産業や教育などあらゆる分野で大きな変化に直面しています。

SDGs、デジタル化、ゼロカーボン、ジェンダーレスなどは、行政のみならず社会や経済の仕組みを根底から変えようとしています。

併せて、令和 2 年に発生し世界的パンデミックを引き起した新型コロナウイルス感染症は、町民の皆様の健康、社会生活、地域経済に大きな影響を及ぼしています。

一方で、水と緑あふれる自然環境や田園風景に接しつつ町内外への町の魅力の発信や、産業や教育、福祉など 5 年間の取組みを通じて箕輪町の持つ豊かさや可能性を再認識しました。時代の行く先が見通せませんが、前期の成果をステップに「誰もが住みたい町、住み続けたい町」を目指し、町民の皆様とご一緒に、自信と気概をもって果敢に挑戦し続けてまいります。



木下保育園 内観

?用語解説

※ GIGA スクール構想

令和元年(2019年)12月に文部科学省から発表されたプロジェクト。GIGAとはGlobal and Innovation Gateway for Allの略。小学校の児童、中学校の生徒1人に1台PCと、全国の学校に高速大容量の通信ネットワークを整備し、多様な子どもたちに最適化された創造性を育む教育を実現する構想のことです。



もみじちゃん

振興計画は
まちの設計図
なんだ



東みのわサテライトオフィス「夢まち Labo」



木下保育園 外観



みのわテラス



オンラインでの他校交流



箕輪学で販売活動等を行った中学生

チャレンジ目標① 人口減少時代に即した暮らしへの転換

人口減少時代においては、今までのまちづくりのやり方や、私たち一人ひとりの暮らしを転換しなければならないと考えます。チャレンジ目標を「人口減少時代に即した暮らしへの転換」に設定し、平成26年(2014年)に66.1%だった住民満足度を75%以上に上げることを目標とします。

数値目標

新たな時代においても
現在の暮らしやすさを維持

住民満足度：75%以上

※ 2025年時点目標

※ 2014年実績：66.1%

プロジェクト1 「出航!みのわ丸 2025」町民参画促進チャレンジ

箕輪町を『みのわ丸 2025』と名付けた船に例え、「町に暮らすみんなは、同じ船に乗る運命共同体なのだ」というまちづくりへの想いを広めていきます。一人ひとりのまちづくりへの関心と理解を進め、町民の知恵・力を十分に発揮できるまちづくりを進めます。

プロジェクト2 「集落再熱!」集落パワーアップチャレンジ

人口の減少や区・常会の未加入などを原因とする担い手の減少、つながりの希薄化など地区が抱える課題を解決するための取組みを行うことで、地域内の人と人とのつながりを深め、災害や防犯に強い安全・安心な地域をつくります。

プロジェクト3 「ありがとう!健康」健康寿命延伸チャレンジ

「ありがとう!健康」一人ひとりの健康は、個人の幸せのみならず、家族や地域、社会にとっての幸せでもあるという意識を広めていきます。一人ひとりが積極的に参加できる健康づくりの普及で、健康寿命を延ばし、町全体として医療費の削減を目指します。

プロジェクト4 「行政発新!」新時代の行政運営チャレンジ

新しい時代のまちづくりを示した第5次振興計画を着実に進めるための、行政運営の見直しを進めます。町民と共にまちづくりを進めるため、町民に信頼される行政であるよう、行政運営の向上に努めます。

プロジェクト5 「みのわマネーサイクル」地域内資金循環チャレンジ

箕輪町内を中心に地域内での生産・流通・消費(サービス等含む)の流れをつくり、お金を地域内で循環させることにより、地域経済の活性化と魅力ある事業者の増加を図り、町民の暮らしやすさの向上を目指します。

プロジェクト6 「7・5・1のスクラム」教育力向上チャレンジ

7(7保育園)・5(5小学校)・1(1中学校)がスクラムを組み、ふるさと箕輪を愛し、自ら人生を切り拓いていくことができる人を育てる教育を目指します。

プロジェクト7 「世界に誇るセーフコミュニティのまち」安全・安心チャレンジ

「地域の絆、協働、継続」をキーワードに、セーフコミュニティ国際基準による徹底した安全・安心の追求により、「心安らぐ豊かな暮らしができるまち箕輪」を目指します。

プロジェクト8 「復活!向こう三軒両隣」地域の絆再生チャレンジ

団塊の世代が75歳以上に到達する令和7年(2025年)を目途に、支援や介護が必要となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることが出来るよう、住まい、医療、介護、予防、生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を目指します。

チャレンジ目標② 将来の暮らしやすさを守る

人口規模の維持

今までの人口増加を上回る急激な人口の減少は、私たちの生活を支える社会保障の仕組みや、地域のコミュニティを崩壊させてしまうことから、人口減少時代に即した暮らしへの転換と同時に、「将来の暮らしやすさを守る人口規模の維持」も重要であると考え、2025年の人口を**24,500人以上に維持**することを目標とします。

数値目標

人口規模：24,500人以上

合計特殊出生率：1.80

※以上は2025年時点目標

転入者数：2015年比48人増/年

プロジェクト9 「幸せのまち“みのわ”」ハッピーサポートチャレンジ



若者同士がつながる機会をつくとともに、結婚を希望する人の願いが叶うまちづくりを地域全体で進めます。

プロジェクト10 「目指せ！子育てユートピア」子育て安心チャレンジ



安心して出産し、子育てしやすい環境を整えることで、子どもを産む人の希望が叶えられるまちづくりを進めます。

プロジェクト11 「ほどほどの田舎暮らし」移住・定住促進チャレンジ



住宅環境整備、情報発信、相談支援の実施により、箕輪町での魅力ある暮らしを提案し、移住者・定住者の増加を図ります。

プロジェクト12 「地域の足を守れ！」公共交通活性化チャレンジ



地域交通網を整備し、生活利便性を高めることにより、交通弱者対策、移住定住促進、交流人口の増加を目指します。

プロジェクト13 「資源と人の循環づくり」緑のエネルギー活用チャレンジ



環境事業への公共投資により、循環型社会の構築を進めるとともに、経済の活性化と雇用の創出を目指します。

プロジェクト14 「我らは農業応援団！」箕輪の農業応援チャレンジ



住民や農・商・工業者等多様な業種との連携により、地域みんなで農業を支える“農業応援団”を組織し、農業の活性化を図るとともに、景観の保全、食品産業や観光等他産業との連携及び農業教育などを推進します。

プロジェクト15 「Made in Minowa 2025」商工業活性化チャレンジ



産学官金連携等、多くの関係団体が連携した新たな取組み等により、商工業を活性化させ、経済活性化や雇用創出を進めることを目指します。

プロジェクト16 「町民みんながセールスマン」箕輪町知名度向上チャレンジ



移住・定住促進、観光客の誘致、町内製造品の販売の拡大、町民の誇りの醸成等、様々なものにつながる箕輪町の知名度の向上を図ります。行政のみならず、町民や箕輪町に想いのある方みんなで、町の良さを統一感を持って発信していこうという機運を高めます。

プロジェクト17 「好きですみのわ！」ふるさと愛着応援チャレンジ



全ての町民が地域への愛着を高めるとともに、子どもにとって、将来の居住地の選択につながる地域との絆をつくることを目指します。

新しく追加されたチャレンジ

プロジェクト

18

箕輪町DXチャレンジ

デジタル化を
勧めよう!

情報通信技術の飛躍的な進歩に伴い、インターネットやスマートフォンに代表されるデジタルツールは、私たちの生活に無くてはならないものとなり、DX（デジタルトランスフォーメーション）という言葉が日常的に耳にするようになるなど、暮らしのデジタル化が急速に進んでいます。

箕輪町におけるDX推進は、生活を豊かにし、安全・安心で快適な暮らしを実現するための重要な課題と捉え、まずは身近なところから着実にデジタル化を推進していきます。

目標 住民満足度調査「生活の満足度」を75%以上に上げる

概要 すべての町民がデジタル化の恩恵を享受できるよう以下の取組みを行います。

①スマート自治体の実現（自治体DXへの取組み）

- ・インターネットを活用して24時間365日手続きが可能となる行政手続きのオンライン化とマイナンバーカードを活用した本人認証、町民に必要な情報を届けるPUSH型行政への挑戦などによる住民サービスの更なる向上
- ・新しい働き方やスタイルに合ったテレワークやWeb会議のさらなる拡充
- ・エビデンス（根拠）に基づく政策の推進や町勢情報の見える化につながるビッグデータ・行政データの活用、オープンデータ化 など

②デジタルデバイド対策とデジタル人材の育成

- ・デジタル機器に慣れていない方、なじめない方もデジタル化の恩恵を享受できる環境整備
- ・情報通信技術を活用した社会参加の機会を創出
- ・DXを進めていくに当たり必須となる、デジタル人材の育成 など

③可能性を広げる新しい学びへの挑戦

- ・一人ひとりに適した様々な手法を用いた教育機会の提供や、校外、ひいては世界ともつながるデジタル技術を応用した、可能性を広げる新しい学びスタイルの実践
- ・スポーツや文化芸術活動とデジタル技術の融合、誰もが町の文化・歴史に触れられる、学べるデジタルコンテンツの充実
- ・多様な世代が、時間と空間の制約を受けずに、いつでも、どこからでも学びに参加できる生涯学習の場づくり など

④町の活力につながるデジタル化への対応

- ・商工業、農林業などを始めとする既存産業のスマート化（IoT技術の導入など）への支援
- ・キャッシュレス決済など異なる複数のサービス連携での回遊性向上や先端技術を活用した体験価値の向上によるまちの賑わいを創出 など



『私』ができること

- ・身近なデジタル技術に関心を持つ
- ・身近なデジタル技術に触れてみる
- ・情報をみんなで共有する



『みんな』でできること

- ・企業、団体としてできることからデジタル化を進める



VRゴーグルでもみじ湖を散策



VRで映し出されるもみじ湖

地域の役員や組織の長、企業の役員や管理職が男性に偏っていること、一方では、家庭において、家事・育児・介護などのケアワークを担うのは女性に偏っていることなど、性別の枠組みに応じて期待される役割を担う状況が変わらず続いています。また、性別による格差や待遇の違い、与えられるチャンスや選択肢の不均衡がまだまだ残っています。性別に関わらず、それぞれの意欲と個性が発揮できる社会を目指します。

また、性のあり方は一人ひとり違います。互いを尊重し、LGBTQ(性的マイノリティ)の方への理解を進めることで、性別にかかわらず、一人ひとりが尊重される社会を目指します。

目標 住民満足度調査における箕輪町第5次振興計画に基づく取組み「人のつながりと協働のまちづくり」の満足度を上げる

概要 すべての町民がジェンダー平等の意識を共有するため以下の取組みを行います。

① 広報啓発及び情報発信

性別役割分担意識を解消するため、あらゆる場や様々な手法を活用し、幅広い世代に向けた広報啓発及び情報発信に取り組みます。

② プラットフォーム及びネットワークづくり

性別にとらわれず、意欲に応じた活動・参画を支援するためのプラットフォーム及びネットワークづくりに取り組みます。

③ 多様な性の理解の推進

すべての人が持つ「性的指向や性自認」の理解を深め、LGBTQ(性的マイノリティ)に対する偏見や差別の解消に向けた取組みを推進します。

④ 役場におけるジェンダー平等の推進

性別関係なく、個人の能力に応じた管理職への積極的な登用や男性の育児休業取得の更なる推進を図り、役場が率先してジェンダー平等を推進します。また、あらゆる分野の施策に反映するため、役場内の分野横断的な連携を強化します。

⑤ 企業におけるジェンダー平等の推進

男女共同参画及びワーク・ライフ・バランスの推進に取り組む企業の把握と、取組み事例のPRにつながる仕組みを検討します。また、男性の育児休業取得の取組みを企業等へ呼びかけ、取得の促進に取り組みます。



『私』ができること

- ・ジェンダー平等に関心を持つ
- ・性差のない取組みを理解し、ジェンダー平等に積極的に参加する



『みんな』ができること

- ・企業、団体として性差のない環境整備を進める



イクメン・家事メンフォトコンテスト



女性活躍井戸端会議

自然に優しい
箕輪になるう!

プロジェクト

20

箕輪町ゼロカーボンチャレンジ



近年、世界各地で記録的な高温や大雨、大規模な森林火災、干ばつなど、地球温暖化による異常気象が頻発しています。これらの異常気象は、今や気候危機と言われています。

2015年、日本を含む174か国とEUが署名し、採択された「パリ協定」では、世界的な平均気温の上昇を、産業革命前と比べ1.5℃に抑えるよう努力することとしており、また、そのためには、二酸化炭素排出量を2050年に実質ゼロにすることが必要であるとされています。

箕輪町は、日照時間が長く、森林資源やそこから生まれる水資源、温泉など、豊かな自然が存在します。わたしたちは、これらを活用した脱炭素社会を実現することにより、SDGsが掲げる「誰一人取り残さない」持続的な社会を構築し、次世代に受け継ぐ責務を負っており、まちづくりの大原則として位置付け、あらゆる分野でゼロカーボンシティ実現に向けた取組みを強化します。

目標 住民満足度調査における箕輪町第5次振興計画に基づく取組み「快適な生活環境の整備」の満足度を上げる

概要 SDGsが掲げる「誰一人取り残さない」持続的な社会を構築するため以下の取組みを行います。

- ①豊富な自然資源が生み出す再生可能エネルギーを最大限活用した、エネルギーの地産地消
 - ・町の自然と景観等に配慮した再生可能エネルギーの導入・普及
 - ・再生可能エネルギーを最大限に活用できる環境の整備 など
- ②3R（リデュース、リユース、リサイクル）の推進による、省資源、省エネルギー化の徹底
 - ・ごみ減量の取組み強化（家庭、事業所、役場）
 - ・徹底した省エネルギーの推進 など
- ③環境に配慮したクルマへの転換を図るとともに、公共交通の利用及び自転車の活用を推進
 - ・公共交通の充実
 - ・EV（電気自動車）の普及促進 など
- ④町内面積で多くを占める森林の整備や緑化を強化し、温室効果ガスの吸収源対策を推進
 - ・森林整備、森林資源活用
 - ・まちなか緑化、公園整備



『私』ができること

- ・脱炭素社会に関心を持つ
- ・個人レベルで二酸化炭素排出量を減らす取組みを行う
- ・家族みんなで情報を共有する



『みんな』でできること

- ・企業、団体で脱炭素社会に向けた積極的な取組みを行う



啓発活動



森林整備